

# 豊かな自然を未来に引き継ごう

## 八千代の谷津・里山と生物多様性

地球上にはさまざまな生物がいて、山や森、川などさまざまな環境で、互いに共存・競合し、バランスを保ちながら生きています。このように、生物同士がつながりを持ちながら存在していることを生物多様性といいます。豊かな自然を未来に引き継ぐために、私たちにできることを考えてみませんか。



お問い合わせは  
生物多様性・里山の  
保全については  
環境政策室  
☎421-6767  
むつみの森について  
は指導課  
☎481-0301

### 豊かな自然を残したい谷津・里山

市内に残る谷津・里山は、山林、水田、畑、沼、池、川などで形づくられています。生活の変化や土地所有者の高齢化などで管理されない土地が増えています。荒廃した谷津・里山では、地域固有の動植物が減少し、有害鳥獣のすみかなどになっています。

これらの課題解消のため、市では3年3月に八千代市第3次環境保全計画を策定し、様々な取り組みを進めています。また、土地所有者や地域住民が荒廃を食い止めようと里山整備活動を展開し整備された里山は、環境学習や憩いの場にもなっています。

### 外来生物と特定外来生物

外来生物は、国内に2,000種以上いるといわれています。その一部は、長い時間をかけて育まれてきた地域の生態系を大きく変えてしまうことから問題となっています。

外来生物の中でも生態系や農林業などに深刻な悪影響を与えたり、人に直接危害を加えたりするものを特定外来生物といいます。3年8月時点で、国内では156種類が指定されており、そのうちカミツキガメやセアカゴケグモなどは市内でも確認されています。

特定外来生物は、平成17年に施行された外来生物法によって飼育や運搬、譲渡、野外に放すことが原則禁止されています。



◀捕獲されたカミツキガメ

### 生物多様性保全のためのお願い

1 外来種を野外に放さないでください  
外来種を野外に放つことは、地域の生態系に悪影響をおよぼすおそれがあります。カミ

ツキガメやアライグマは、ペットとして飼育されていたものを飼い主が飼育できなくなって自然に放したことで増えてしまい、特定外来生物として問題になっています。

2 他の地域から動植物を持ち込まないでください

他の地域の生き物は絶対に持ち込まない、持ち出さないことを守って、生物多様性を保全しましょう。

3 野生動物との接し方に注意してください

自然界の中には毒や病原体などをもつ非常に危険な動植物も存在します。野生動物にむやみに触ることは控えましょう。また、野生動物への餌付けは、生態系に悪影響を及ぼすだけでなく、生活被害につながるおそれがあるので控えましょう。

4 ごみのポイ捨てはやめてください

道路や河川敷にごみを捨てると、景観を悪化させるだけでなく、野生動物が餌と区別できずに誤飲・誤食し、死んでしまう場合があります。ごみのポイ捨てはやめましょう。

### 里山楽校に参加しませんか

市では、谷津・里山の大切さや里山保全の取り組みの必要性を発信し、担い手育成の推進を図るため、里山整備ボランティア人材育成講座「里山楽校」を開催しています。

里山楽校では、里山整備の知識を深める座学やチェーンソーなどの使い方を体験できる実習があります。里山楽校の卒業生は、市内の里山で整備活動を実施しています。18歳以上で講座終了後に市内の里山で活動をしたい人を対象に参加者を募集します。先着15人

▶日時 10月22日、11月5・19日、12月3日、1月14日いずれも土曜日午前10時から午後3時  
▶場所 市役所および市内の里山など  
▶参加費 1,500円(保険料) ▶申し込み電話、メールまたは直接窓口へ(氏名・住所・電話番号・生年月日・性別をお知らせください) 詳しくは環境政策室へ☎kankyoul@city.yachiyo.chiba.jp

### むつみの森の里山保全

八千代市内の里山を整備するボランティア団体「里山むつみ隊」は、小中学生が自然に親しむ教育・学習の森として、市内の森を整備しています。

睦中学校から東へ700メートルほど行くと、東邦大学グラウンドの隣にむつみの森があり、3年度は、睦小学校と睦中学校がむつみの森へ行って学習しました。

睦小学校は、4年生の校外学習で里山むつみ隊に、森を守るの意味やどのような活動をしているか話を聞きました。児童たちは、里山を探検し、自然の様子や生き物を観察しました。また、むつみの森で拾った木の実や枝などの材料を図画工作の時間に使用したり、理科の時間に出かけるなど、児童たちにとって身近な存在となりました。

睦中学校は、休日の部活動の時間にむつみの森に出かけ、里山むつみ隊の活動に参加しました。歩道の整備や落ち葉を集めたり、古くなった囲いの丸太を新しいものに交換したりしました。また、合唱部が歌を披露したり、ナタや電動ドリルを使い、竹垣作りやハンモック作りを教えてもらうなど、交流しながら自然と触れ合う体験をたくさん行うことができました。

自然と人間の暮らしをつなぐ場所が、里山です。畑や田んぼは人が手を加えた自然の環境で、野生の生き物と人との中間地点と言えます。この中間地点である里山を保全していくことが、自然と共生する私たちの責任であり、SDGs目標15「陸の豊かさを守ろう」の達成にも必要なことではないでしょうか。



広告

広告